

聖なる決断 (ヨシュア 24:14-15)

神様は私たちが現場に光を放つ現場灯台として召されました。それは、サタンがいちばんこわがり、嫌う存在だということです。それゆえ、サタンは策略を使って攻撃してきます。サタンは、世の中という武器をもって、世の人はそこから出られないように捕まえ、教会は世の風習に流されるように、世の終わりまで攻撃してきます。そこで、神様は教会と信徒に聖なる決断をすることを願われるのです。

きょうの聖書箇所では、イスラエルが約束の地カナンをほぼ征服したときのイスラエルの姿が描かれています。約束どおりにカナンの地に入ったのですから、神様をほめたたえるべきイスラエルが、エジプトにいたころに仕えていた偶像の神に仕え、それに加えて、カナンの地の神にも仕えはじめたのです。そこで、ヨシュアが「私と私の家とは、主に仕える」と宣言して、イスラエルの民に聖なる決断をするようにとっています。

イスラエルの歴史を見たとき、アブラハムの家系が祝福されたのにもかかわらず、エジプトの偶像に飲み込まれ、奴隷になりました。そこからモーセによって抜け出したのにもかかわらず、金の子牛を作って拝みました。40年荒野をさまよひ、やっとカナンの地を征服したのに、エジプトの神々、それに加えてカナンの地の神々をおがみました。そのあと、めちやくちやな士師の時代を迎え、その後の王政時代はよりひどい時代になります。このように見ると、人間というのはほんとうに愚かな存在で、人には期待することはできないとわかります。ただ神様がなされることに期待するしかありません。これはどの時代でも、人間なら同じです。ですから、神様に仕えるという聖なる決断をするように神様が導かれるのです。

サタンが世の中を掌握しています。その**世の中がどのようなものか**を知りましょう。まず、さまざまの姿で見えますが、世の中は神様を離れた暗やみの中にいることを知りましょう。サタンは世の支配者だと言われ、空中の権威を持つ者だと言われています。その**サタンが支配する方法が、この世の流れを作り、その流れに人々が従うように**

させることです(エペソ 2:2)。では、**世の流れ**とはなんでしょうか。それは、神様なく、人が中心になっていることです。人間がすべてであり、因果応報の思想で、人間の行いで人生が決まるというヒューマニズムの考えです。

その考えゆえ、主題が「**良い人になるべき**」ということになります。その主題に基づき、努力、行い、道徳、倫理、宗教が出てきて、それによって教育もされています。良い人は存在するのでしょうか。聖書は義人はひとりもないと言っています。人から出て来るのは悪だけで、人間の能力は罪を犯すしかできないのです。しかし、サタンは人間は良いものだと言います。その結果、人間は救われなければならないということ、その道のキリストが必要だということ、ただ信仰しかないということを真っ向から反対する流れになっています。

また、もうひとつの主題が「**問題なくうまくいくべきだ**」ということです。たましいが死んでいるので(エペソ 2:1)、霊的事実に無知で、見えることがすべてだと肉体中心になっています。それゆえ、富を得ることで人生が安定すると思ひ、問題解決が主題となって、偶像が生まれるようになります。ですから、霊的なことが必要で、神様から与えられるいのちが必要で、いのちの主人であるキリストが必要だということ、キリストの中の祝福こそがまことの祝福だという事実は、妄想でしかないと思うようになります。

また、世の流れは、世が中心で永遠だと錯覚しています。世に希望があると探すようにさせます。それゆえ、「**より良い世を作ることが目標で、成功と発展を求め**る」という主題を持ちます。ですから、この世が減びの町であり、神の国が希望だということ、永遠の天国があると言う人には石を投げます。

このような世の流れに、すべての人が染まっています。クリスチャンである私たちは、その世と同じで良いのでしょうか。この世には、キリストの救いがいちばん必要です。**ほんとうの主題は、キリストが伝えられる伝道**です。世のことは目標ではありません。サタンが与えた考えによって、神様から



離れた世の流れから出られないなら、そこに縛られてしまいます。教会まで、中身は世の流れのまま、律法主義、ごりやく主義、博愛主義、神秘主義になって、神学も世の流れの影響を受けています。そして、宗教多元主義となり、教会という姿はあるのですが、中身は世と同じになっています。いまヨシュアの時代より、もっと深刻な時代になっています。その時代に私たちが現場灯台として召されました。このような背景を持って「私と私の家は主に仕える」という聖なる決断をすることを神様は願っておられます。

私はイエスだけ伝えます。主だけを見上げますと**only イエスの決断**をしましょう。私とこの地球の希望はただキリストだけ、イエスがそのキリスト、イエスが私の義、私の望み、私の能力、私の幸せだという告白とともに、イエス様おひとりでは十分であり、幸せだと決断しましょう。そのように only イエスの決断をした人は、残りの人生は **only 神の国のため**だと決断しましょう。生きる理由は、ただひとつ、なにをしても、どこにいてもただ伝道のためです。なにを食べるか飲むかではなく、死ぬまでただ伝道のために生きるということを事実として告白しましょう。神様がその理由しか与えて

くださっていません。Only 神の国ですから、世の中をうらやむことも、おそれることもありません。世のすべては、伝道のために与えられていることで、私のものではなく、神様のものです。タラントは、道具として神様が私に任されているものだと思うなら、あるからと自慢して気分が良くなったり、ないからと落胆することはありません。そして、**only 聖霊**によって生きて行くことを決断しましょう。神の国、伝道することが十分に可能な者だと認めましょう。聖霊が内におられるのは、伝道ができる人にするためで、伝道はするのではなく、成り立つことです。私の人生は、すべてのことを働かせて益とされます。Only 聖霊によって、言い訳、不平不満、弁明がなくなります。このような決断をするとき、サタンを足で踏むようになります。聖霊なる決断をする人がすることは、**ただ祈りだけ**になります。それが使徒 1:14 の祈りです。古い枠を壊して、新しい枠で、世の方法ではなく、神様の方法で生きることが祈りです。現場灯台として、聖なる決断とともに祈りに専念するようになることをお祈りします。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

ヨシュア 24:14-15 聖なる決断

なるほど/ 空中の権威もつサタンは、人中心、肉中心、この世中心の世の流れを作り上げ、罪の本性を刺激して、世界を支配しており、この世の流れを教会に浸透させ、教会を倒している。しかし、神様は、福音の人を残されてご自分の契約をまっとうされる。ならば/現場灯台として召された信者は、世の流れに逆らい、Only イエス、Only 神の国、Only 聖霊を命をかけた人生の告白として、絶対譲れない告白として決断し、その告白に最高の誇りを持たなければならない。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2019年7月28日)

1 部礼拝 : 霊的問題を持った者を生かす神殿 (マタ 12:38-45)

地球上の深刻な問題がサタンがもたらした創世記 3章、6章、11章の問題であることを知って、それを解決したキリストの契約を握って霊的戦いをするようにしていただき感謝します。まことの王、まことの祭司、まことの預言者なるキリストが、私の人生、家系、業、行くすべての道の主人になってください。今、イエス・キリストの御名によって命じるサタンは打ち砕かれて離れなさい! 悪い霊によって苦しむ民族とレムナントを生かしてサミットとして準備する新しい神殿を準備しながら、神様がくださった機会を握って最高の人生が始まりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2 部礼拝 : 世界宣教の黄金漁場 (使 18:1-4)

答えの始まりとなる神様の正確な契約を握って、世界福音化の黄金漁場、神様の機会を握るようになりいただき感謝します。世界化の確実な福音の契約を握りますように。私にくださる技能を持って暗やみを崩して、世界化の技能で用いられますように。ローマを生かす同労者の役割をして、いのちをかける世界宣教の技能になりますように。神様がくださった契約の機会を握って世界福音化しますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。